

【AI 覇権は「学習」から「推論」へ】

ソブリン AI 実現への戦略と AI インフラ競争

～AI 推論基盤の進化と日本企業の勝ち筋を読み解く～

— 講 師 — アーサー・ディ・リトル・ジャパン株式会社 プリンシパル 藪内 優賀 氏
マネージャー 三ツ國 拓真 氏
コンサルタント 中神 貴之 氏

日 時 2026 年 10 月 1 日 (木) 午後 1 時～3 時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 紀尾井フォーラム 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート1F

〔重点講義内容〕

生成 AI の普及により、AI 開発競争の中心は「学習」から「推論」へと急速に移行しつつある。AI エージェントの登場は推論処理量を飛躍的に増加させ、AI 半導体、データセンター、クラウドを含む AI インフラ全体の競争構造を大きく変え始めている。こうした変化は、日本企業にとっても新たな事業機会をもたらしている。

本講演では、AI 推論市場の構造変化や主要プレーヤーの戦略を読み解いた上で、日本が強化すべき AI 領域と、日本企業が競争優位を確立するための戦略の方向性について説明する。

1. AI 市場における「学習」から「推論」へのシフト
2. AI 推論時代に重要となる新たな競争軸
3. AI 推論効率化に向けた手法や主要企業の取組み
4. AI 推論効率化におけるメモリ選択の重要性
5. ソブリン AI 実現に向けた取組み方向性
6. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 藪内 優賀 (やぶうち まさよし) 氏

Automotive & Manufacturing (AMG) プラクティスのコアメンバー。自動車、機械、エレクトロニクス、半導体、エネルギー、IT サービスにおける企業価値向上戦略、全社ポートフォリオ戦略、成長戦略策定、新規事業立案・実行支援、エコシステム形成のプロジェクト経験を豊富に有する。また、金融機関・PE ファンド・総合商社に向けた、事業バリュエーション、成長戦略策定、事業再生などに関しても豊富なプロジェクト経験を持っている。

PROFILE 三ツ國 拓真 (みつくに たくま) 氏

Telecommunications, Information technology, Media & Electronics (TIME) プラクティスのコアメンバー。主な担当領域は、通信、IT サービス、データセンター、メディア、半導体をはじめとするエレクトロニクス関連の製造業における、新規事業参入に係る戦略策定、既存事業の成長戦略策定、企業再編・統合に係る事業バリュエーション・戦略策定。

PROFILE 中神 貴之 (なかがみ たかゆき) 氏

Automotive & Manufacturing (AMG) プラクティスのコアメンバー。自動車、機械、エレクトロニクス、半導体をはじめとする製造業における、新規事業参入に係る戦略策定、既存事業の成長戦略策定等を担当。また、金融機関に向けた事業バリュエーション、成長戦略策定にも従事。

